

第 16 回 SC 国内分科会委員長会議報告

下記の内容で第 16 回 SC 国内分科会委員長会議を開催しました。

- ❖ 日 時 2014 年 7 月 17 日 (木) 13:30～17:10
- ❖ 場 所 ルーテル市ヶ谷センター 2 階 第 1, 2 会議室
- ❖ 出席者 横山委員長, 土井副委員長, 田井顧問, 伊藤本部 A3 委員長,
各 SC 国内分科会委員長 (A1 松本, A2 門脇, A3 香山, B1 田中, B2 寺島,
B3 川北, B4 牧野, B5 菅沼, C1 藤岡, C2 三川, C3 根岸, C4 新藤, C5 浅野,
C6 林, D1 穂積, D2 岩崎), 幹事団 (福井, 上原, 北山, 松田, 廣瀬, 今川, 小林),
若手ネットワークメンバー (A1 田中, B2 松野, B3 野口, B4 田畠, B5 石川,
C1 小蒲, C4 小関, C6 児玉, D2 岡本), 事務局 (水村)

❖ 議事内容

0. 開会挨拶: 横山委員長

- ❖ お忙しい中 SC 国内分科会委員長会議にご出席いただきありがとうございます。また、若手の方にも参加いただきありがとうございます。
- ❖ CIGRE 本部も若手活性化に力を入れており、パリ大会も若手の活動が大きなトピックになっている。JNC も先取して若手に活躍の場を提供したい。

1. 本部執行委員会報告: 田井顧問

- ❖ 5 月に米国シャーロット開催された本部執行委員会について以下の内容が報告された。
 - 独禁法の対応として、ビジネスの話はしていないという書類にサインする。この対応について今後本部方針が決まったら JNC としても対応が必要。
 - パリ大会では旧執行委員会は開催せず、旧理事会を丸 1 日かけて行う。
 - 新事務総長の説明
 - ✧ IT システムの改善を 45 万ユーロかけてやりたい。
 - ✧ 2013 年のパリ本部の収支は改善し、2014 を合わせた 2 年の収支は黒字転換見込み。
 - ✧ Statutes の見直しとして、団体会員の等価会員数 5→6, 若手会員 1→0.5 に変更。
 - マーケティンググループの活動報告: うまくいっているブラジルをベストプラクティスとしたい。

2. 本部技術委員会 (Technical Committee) 報告 伊藤 A3 本部委員長

- ❖ 伊藤 A3 本部委員長より、以下の内容で本部技術委員会について報告された。
 - 本部 SC 委員長として、C1 が ENTSO-E の委員長に、C6 が女性になった点が目新しい。
 - TC 表彰として C6 大山前委員長が表彰されることとなった。
 - 2 つ以上の SC が関連するプロジェクトを重視しており、HVDC, UHV, 将来のネットワークなどがテーマになり、C 分野の SC が中心になっている。
 - 日本から引き続き本部委員長を出すためには、若手に対し以下の 3 ステップの取り組みが必要。
 - ✧ ベテランと一緒に WG 参加
 - ✧ WG の休憩中に WG メンバーに話しかけ顔を売る (ここまでで 10 年くらい)
 - ✧ 他の WG メンバーと対等に議論

- 本部 TC 会議も日本開催の要請が本部から来ている。
- UHV コロキウムが 2013 インド、2016 カナダで開催予定。2019 日本開催可能か、JNC 内で相談してほしい。

3. AORC2014 東京会議報告 上原幹事

- ❖ 本年 5 月開催の AORC 東京会議について、上原幹事から下記内容の報告があった。
 - 参加者：210 名
 - 5/27 午前には、オープニングセレモニー、キーノートスピーチ、プレナリーセッションを開催。
 - 5/27 午後には、AORC 理事会を開催。

4. 2014 年 CIGRE 優秀日本論文選考結果報告 廣瀬幹事

- ❖ CIGRE 優秀日本論文選考結果について、廣瀬幹事から下記内容の報告があった。
 - 最優秀論文 SCB4 責任著者：松田氏
 - 優秀論文 SCB1 責任著者：村田氏
 - 優秀論文 SCA3 責任著者：大野氏

Q：費用の用途を規定しない方が良いか？（福井幹事）

A：用途は限定しない方がよい（A3 香山委員長，B1 田中委員長，B4 牧野委員長）

C：賞金はパリへの渡航費用補助ということで受賞者代表を 1 名選定した。用途を限定しないのであれば著者全員で均等に配分することも考えられる（B3 川北委員長）

C：いただいた意見を参考に検討する。（福井幹事）

5. 2014 年第 45 回パリ大会準備状況について 松田幹事

- ❖ パリ大会の準備状況について、松田幹事から下記内容が報告された。
 - 日本人の大会参加に関する登録状況
 - JNC 控え室の準備状況（例年と同じ 233M を予約）
 - 日本主催パーティの準備状況
 - ◇ 日時：8 月 25 日（月）20:00～
 - ◇ 会場：前回と同じ Salons Hoche
 - ◇ 海外招待者：136 名

6. 若手技術者支援制度に基づくパリ大会への派遣について 松田幹事

- ❖ 支援対象者として関西電力小蒲氏，東芝可児氏，九州電力岸氏に，パリ大会渡航費用等として各人 20 万円の支援を行うことが，松田幹事から報告された。
- ❖ 若手 NW の活動状況について小蒲若手 NW 代表から報告された。
 - 若手 NW は昨年 12 月に発足。
 - パリ大会では，フォーラムとポスターセッションに参画する。
 - 現在 16 名が各 SC の推薦で活動している。今後も各 SC 1 名以上の推薦をお願いすると共に，現委員が退任の際には後任を選出いただくようお願いする。

7. 2015 年以降の SC 会議日本開催について 福井幹事

- ❖ 2015 年に A3，B3 名古屋会議が予定されていることと，SC 会議の積極的な誘致のお願いについて，福井幹事から報告された。

- ❖ 現状の為替レートだと資金残高が通減する。収支改善方策として、日本開催 SC 会議の頻度を 2 回／2 年から 1 ～ 2 回／2 年に見直す。

8. 日本 CIGRE 国内委員会理事会開催について 小林幹事補

- ❖ 隔年開催の理事会を例年にならい 1 1 月開催予定としている旨、小林幹事補より報告された。

9. 日本 CIGRE 国内委員会ウェブサイトについて 北山幹事

- ❖ JNC のウェブサイトの改訂について、北山幹事から下記内容が報告された。
 - 2013 年から 2014 年 4 月にかけてリニューアルを行い、現在のウェブサイトと並行して試験運用を開始した。
 - 今年度は、会員情報 DB の構築、委員情報 DB から任意様式のダウンロード機能、会員情報に関するオンライン化、を優先して会員管理機能を追加していく予定。

Q : JNC ウェブサイトの要望事項についてアンケートを回答したが、再度提出した方がよいか？
(B4 牧野委員長)

A : アンケートの情報については確認する。(福井幹事)

10. CIGRE 会員数の状況と会員数増大について (お願い) 松田幹事、今川幹事

- ❖ 日本の会員数の状況と会員数増大のお願いについて、松田幹事から以下が報告された。
 - 日本の等価会員数は 7 6 7 名で世界第 3 位。アジアオセアニアでは中国に次いで 2 位であり、本部執行委員会の席は確保された。
 - 引き続き、等価会員数 8 0 0 を目指して、個人会員・若手会員の勧誘を行っていただきたい。
- ❖ 日本からの TOR 提案について、今川幹事から以下が報告された。
 - コンビーナ、セクレタリの総数が 2011 年と比較し、17 名から 7 名に減少している。
 - TOR を提案することでコンビーナ、セクレタリへの就任に結びつく可能性が高くなるため、SC 国内分科会委員長と WG メンバーの協力をお願いする。

11. 本部よりの TOR に関する対応状況について 今川幹事

- ❖ 本部の TOR に基づき、日本からの参加者に関して WG のレギュラーメンバーもしくはコレスポンディングメンバーでありながら CIGRE の個人会員でない方に、個人会員になっていただくようお願いした。

12. 2016 年 SC 日本代表レギュラーメンバー交代の進め方について 松田幹事

- ❖ 2016 年レギュラーメンバーの交代の進め方について、松田幹事より以下の内容が報告された。
 - 2016 年には、A1, C4, D1, D2 の 4 名が交代予定。
 - A1, D2 は 2 期連続同一組織なのでローテーションを考えたい。
 - 交替された委員長も 1, 2 年は国内分科会に参加いただくような「オブザーバ登録」についてサポートしたい。

Q : 交代の件は、D2 の委員会内で相談しているが、事務局に報告するタイミングは？ (D2 岩崎委員長)

A : 8 - 9 月に所属に関するアンケートを行うのでそのタイミングでよい。(松田幹事)

1 3. 第 45 回 CIGRE パリ大会報告の電気学会 B 部門論文誌への投稿原稿（案）作成のお願い

今川幹事

❖ 来年 3 月号の B 部門論文誌に掲載予定の原稿作成を各 SC 委員長に依頼した。

Q：電気新聞への投稿はパリ大会後か、前はないのか？（D2 岩崎委員長）

A：優秀日本論文の表彰について、来週投稿予定。（今川幹事）

1 4. 各 SC における活動紹介、他 各 SC 委員長殿

❖ 各 SC 委員長から、各 SC の活動状況と予定等について、今年 2 月の JNC 総会以降の変更点を中心に説明。

主な説明内容は以下のとおり（配布資料と重複する内容は省略。）

D1：3 年前に京都で SC 会議を開催しており、当面日本での SC 会議は予定なし。

D2：プロモーション活動として、フェロー制度の導入、ニュースレターの発信、若手交流会などを実施している。2016 年に委員長交代のため、2017 年の SC 会議日本開催は難しい。

Q：パリ大会参加 20 名のこつは？（福井幹事）

A：人材育成の観点から出張者を各社から選定していただいている。（D2 岩崎委員長）

Q：各団体の活動との連携はどのように行なっているのか？（土井副委員長）

Q：プロモーション活動で 40 名もの方を集めるこつは？（福井幹事）

A：CIGRE のテーマだけでなく、オムニバスにテーマを選んで人を集めている（例えば「就活」）。（D2 岩崎委員長）

C1：他の SC に倣い、幹事会を昨年から開催し、突っ込んだ議論をしている。2017 年の SC 開催地についてはパリ大会で情報収集する。

C2：2015 年のスウェーデン・ルンド・シンポジウムはリーディング SC なので論文作成を依頼したところ。2017 年の SC 開催地についてはパリ大会で情報収集する。

C3：国内委員会の活性化が課題。昨年奈良で SC を開催したので当面は SC 会議日本開催の予定はなし。新設予定の WG「調和型変圧器による社会受容性の向上」において、日本の地下変電所の構造について問い合わせがあり B3 に対応いただいた。

Q：活性化策として具体的には？（横山委員長）

A：WG に手が挙がらない。本部の WG も低迷している。付加価値をつける提案を行い、WG に参加しやすくしたい。（C3 根岸委員長）

C：C3 本部委員長は TC に 2 回連続で欠席しており、問題視されている（伊藤 A3 本部委員長）

C：C3 は TOR を出せばすぐ通る状況。（福井幹事）

C4：WGC4.410,C4.36,C4.37 にコンビーナを出している。1 件 TOR を画策中。過去釧路で SC を開催しており、2017 年に日本開催の予定はなし。

C5：2015 年の SC はスウェーデン・ルンドで、2017 年はアイルランドと南アフリカが立候補している。

C6：スマメ関係の TOR を作成してパリ大会の SC 会議で提案予定。パリ大会で大山前委員長がスペシャルレポートを努める。昨年横浜で SC を開催しているのでしばらく時期をおきたい。

B1：パリ大会の論文数が増えた印象（33 件）。AORC は片貝前委員長の尽力で成功裏に終了。2017 年の SC 会議はインドで開催予定。

B2：パリ大会では景観対策の基準に関する質問が多く、日本が気を使いながらやってきたことを多くコントリビューションしたい。2015 年はインドで SC 開催のため、2 回連続でアジアの開催はないと思われる。若手メンバーが異動のため、篠崎氏から松野氏に交代した。

Q：WGC3.14 は送配電線の建設時の環境アセスがテーマだが、B2 とのジョイントにならない

のか（横山委員長）

A：特に聞いていないが関係を図っていききたい。B2は環境への関心が高い。（B2 寺島委員長）

B3：パリ大会では9件のコントリビューションを予定しており、うち5件が若手からの発表。これにより各社が若手をパリ大会に連れてきていただけるので、参加者は19名。来年 A3&B3 の名古屋会議を開催予定で本日 Web がオープンした。2017 年の SC 会議はブラジルの方向。

B4：高調波に関し、C4/B4.38 に加え 3 つの WG が新規に立ち上げ予定。2015 年はルンドでシンポジウム、インドでコロキウムを予定。2017 年の SC 会議はカナダが立候補。

B5：ジョイントワーキングの WGA3/B5/C4.46 のメンバー人選中で菅沼委員長と東芝の2名が参加予定。2017 年の SC 会議については、パリ本部や本部 SC 委員長からのプッシュがあると聞いている。

C：B5 のジョイントワーキングの情報共有について TC で議論した。年2回発行のプログレスレポート、議事録を回覧することになった。（伊藤 A3 本部委員長）

A1：最近メンバーの社名変更が多い（MHPS, 日立三菱水力, 東電 Fuel & Power など）。2015 年の SC 会議はスペイン、2017 はブラジルの予定。

A2：パリ大会のセッションで名大早川先生が高温超電導についてキーノートスピーチを予定。

WG に人を張りつけても、WG に全部参加できないという悩みがある。2015 年の SC 会議は上海、2017 年はポーランドを予定。

C：WG 参加の態勢については、JNC 委員長名のレターも出せる。（福井幹事）

A3：13 の WG に 10 名のメンバーで参加している。2015 年は A3&B3 合同会議を名古屋で開催予定。2017 年の SC 会議はカナダを予定。

（全体を通して）

C：D2 のプロモーション活動の一環として「英語と私」をテーマにしているので、執筆者を推薦してほしい。また、CIGRE の和文名称が「国際大電力システム会議」だが、「大電力」、「電力システム」の用語は誤解を受けやすい。再考の余地はないか？（D2 岩崎委員長）

C：伝統ある名前でありなかなか難しいが、検討する。（福井幹事）

Q：本会議への若手同席は初とのことだが、今後も継続する予定か？（B2 寺島委員長）

A：今回の試行について懇親会でも意見を聞いてみて、今後も継続したい。伊藤 A3 委員長の話にもあったが、「委員長にくっついて」という機会を引き続き作っていききたい。（横山委員長）

15. 閉会挨拶： 土井副委員長

長時間の議論に感謝。本部、AORC の状況、若手メンバーの活動状況をご報告頂いたが、日本への期待も大きいもの、日本として更に強化すべき点も明らかになったと思われる。まずは、8 月のパリ大会では皆さまの力添えをいただき、日本のプレゼンスを高めていきたい。

以 上